



青森県漁業士会会報

# 浜風

HAMAKAZE

18.8 vol.14

発行: 青森県漁業士会

青森県水産振興課内

017-734-9592

編集: 「浜風」編集委員会

## 平成17年度指導漁業士・青年漁業士認定

平成17年度、新たに次の方々が漁業士に認定されました。



### 指導漁業士(新規認定)

所属漁協	氏名
蓬田村	大宮千恵子
平内町	三津谷秀子
大戸瀬	大川昭一

### 指導漁業士(青年漁業士から移行)

所属漁協	氏名	所属漁協	氏名
野辺地町	柴崎秀生	野牛	伊柳晴美
大戸瀬	山下幸彦	赤石水産	石岡清美
赤石水産	今弘樹	鯹ヶ沢	齊藤幸市

### 青年漁業士

所属漁協	氏名	所属漁協	氏名	所属漁協	氏名
平内町	阿保正人	平内町	田村和義	平内町	船橋克美
平内町	船橋智	小川原湖	沼辺啓市	八戸鮫浦	関野稔
横浜町	森川末勝	横浜町	中山智昭	脇野沢村	清藤裕造
川内町	菊池昭博	川内町	光谷武男	川内町	菊池傑
川内町	上小倉良次	風合瀬	山本恵一		

会員紹介は次号

# 実績発表大会開催



平成18年1月12日、青森市の県民福祉プラザにおいて「第47回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会」が開催され、6人の発表者がそれぞれの研究テーマに沿って、その活動の実績を発表しました。発表内容は、県や漁業関係者など15名の審査委員によって審査され、優秀賞に、尻屋漁業研究会及び三沢市漁業協同組合小型船部会女性部が選ばれました。

なお、3月8日から9日、東京都の虎ノ門パストラルで開催された「第11回全国青年・女性漁業者交流大会」において、本県代表で参加した尻屋漁業研究会が水産庁長官賞を受賞しました。

発表課題	発表者	発表内容
青森市漁業研究リーダー会の活動実績 ～行政とのかかわりについて～	青森市漁業研究リーダー会 副会長 西谷 文昭	行政側との積極的な情報交換やイベントへの参加等により、「アワビの籠養殖」、「ワカメの養殖」等の技術の確率、普及に貢献した。
豊かな自然・小川原湖の恵みを活かす ～シジミ・シラウオを知るチャレンジ精神～	小川原湖漁業協同組合青年部 支部長 沼辺 正孝	小川原湖におけるシジミ・シラウオの漁獲量減少等の打開策として、シジミレーバ調査とシラウオの産卵場や稚仔魚の発生状況に関する調査を実施した。
地域資源に付加価値を ～活魚販売を支えて～	白糠漁業研究会 会長 伊勢田 啓二	スルメイカ、ウニ、アワビ、ホヤの採捕提供を積極的に行い、漁協が運営する蓄養施設の販売事業に協力し、水産物の販路拡大や漁協経営の安定化に貢献した。
空ウニを活用しコンブを増やす ～一石二鳥の技術開発への挑戦～	尻屋漁業研究会 養殖部長 南谷 直樹	商品価値のなかったウニを雑海藻場に移植することにより、ウニの質の向上とコンブの生育量の増加が見られた。
十三湖シジミの安定生産を目指して ～生産部会活動はじめての一步～	車力しじみ生産部会 会長 尾野 明彦	人工種苗の生産や天然祭掃法の検討を行った。また、稚貝の成長が非常に早いことがわかった。
多彩なホッキガイ料理で魚食普及を促進 ～地元でもりもり食べるために～	三沢市漁業協同組合 小型船部会 女性部部長 富田 玲子	ホッキガイを使ったメニューの開発、料理方法の講習会の開催や「ゆうバック」を利用した直販事業などにより、ホッキガイの魚食普及に取り組んだ。

# 支部トピックス

## 東青支部

### 農林水産祭

2005年11月12・13日の青森県農林水産祭に参加しました。東青漁業士会では活ホタテ・マメアジ・ホタテ汁などを販売しました。漁業者が販売するホタテや魚は、鮮度こそ最高にいいのですが、「売る」という行為に関しては全くの素人で大変難しかったです。売るテクニックは全然ありませんでしたが、勢いだけで終了時間までには見事完売。

普段は海でホタテを育てたり、魚を探ったりするだけの漁業者が、直接消費者に販売するのは、緊張感もあり、新鮮で普段は味わえない達成感のあるものでした。こういった機会もなかなかありませんが大変良い経験になりました。



## むつ支部

### 青森県漁業士会むつ支部会第1回研修会



青森県漁業士会むつ支部会第1回目の研修会が3月3日、むつ市グリーンホテルにおいて行われました。

41名のむつ支部会漁業士の他、各漁協、関係団体から総勢82名が参加しました。

今年、下北地区では、昭和59年以来となる低

水温が津軽海峡、太平洋において観測されたため、漁業者は漁業への影響が出ないか懸念していました。

そこで今年度第1回目の研修会では、講師に水産総合研究センター、漁場環境部佐藤晋一郎部長を招き、「低水温に関する情報」と題して講演いただきました。

昭和59年の異常冷水年の時にはアワビの大量斃死、マイワシやリカの不漁などの被害がありました。今のところ3月中旬の海況予報では津軽暖流の下北半島東方への張り出しは平年並みと予想されているようで、漁業者は安堵の表情を浮かべていたようでした。

講演終了後に行われた懇親会において講師の佐藤晋一郎部長との意見交換もすることができ、有意義な研修会となりました。

## 三八支部

### 岩手県漁業士会久慈支部との交流会開催

2月24日に八戸シーガルビューホテルにおいて交流会が開催されました。



この交流会は平成8年度が初年度で、その後、平成9年度から隔年両地区持ち回りで開催され、今回が6回目となり、本県から21名、岩手県から15名が参加しました。交流会ではそれぞれの活動報告の他、

「漁船漁業」、「磯根漁業」の各分科会に分かれ、より専門的な意見や仕事上で抱える課題などの情報交換を行いました。漁船漁業分科会では、八戸みなと漁協所属の漁業士が行っている活魚販売の事例を紹介、「消費者からは鮮度が良く安いものが求められる一方、漁業者にとっては漁獲、販売コストがかかりすぎる」などの課題があげられた。磯根漁業分科会では、「種苗購入資金が不足、行政の援助が必要」、「漁場造成の効果を挙げるには漁業者の意見を反映すべき」などの白熱した意見交換がなされました。

25日は三沢市漁協において、ホッキガイ水揚げ状況を視察し、成功裏に終了しました。

## 日本海支部

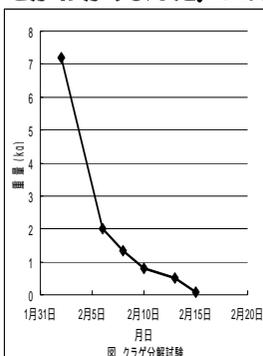
### エチゼンクラゲの死後の世界

今年度も大いに我々漁業者を悩ませているエチゼンクラゲですが、これらは死んだ後どうなるのでしょうか。

これを調べるために、当支部会が鯨ヶ沢水産事務所と共同して「大型クラゲ分解試験」を行いました。

試験は、深浦町小型定置網(代表 斎藤光秋指導漁業士)に入ったエチゼンクラゲを使い、赤石漁港にて、平成18年1月31日～2月20日の20日間行いました。この間、水温は約4(2.8～4.7)とかなり低くなりました。また、エチゼンクラゲは傘部分と、傘以外の部分に分けてそれぞれをホタテ丸籠とアワビ籠に入れて海中に設置しました。

試験の結果は図のようになりました。クラゲは崩れることなく次第に小さくなり、開始から15日目ではほぼ消失しました。そのため、冬季の低水温であっても、クラゲを生かしたままにせず、砕いてやればおよそ20日間で完全に消失することがわかりました。この結果を今後に生かしたいと思いま



試験籠の作成(石岡指導漁業士)

# 海洋学院生ホームステイ

平成17年度漁村交流現地派遣事業について 青森県立海洋学院 教務課長 伊藤 良博  
実施地区: 下北地区 実施期間: 平成17年4月25日～28日、11月28日～12月1日

平成13年度から始まった漁村交流現地派遣事業は5年目となり、今回の受入れ先である県漁業士会むつ支部の皆様には平成13年度に次いで2度目のお世話になりました。

漁業士の皆様には種々お手数や気苦労をおかけしたと思います。

学院生一同、2回のホームステイでは他では体験できない貴重な経験を得ることができました。本当にありがとうございました。

ここに学院生の感想文の一部「浜風」の紙面を借りましてご紹介させていただきます。漁業士の方からみればまだまだという感じがすると思いますが、漁業後継者として育っていく学院生にこれからもご指導の程よろしく願いいたします。



## 漁村交流 加藤 将吾

ぼくは、ホームステイをした家で、底建網漁をしました。とれたのはホッケやカワハギ、ヤリカ、メバル、アンコウなど見たことのない魚もいろいろとれました。

漁が終わって朝食を食べた後は、網を直しました。編み方などをていねいに教えてくれたのですぐに覚えることができました。

夜は、コウナゴを取りに行きました。コウナゴ自体も知らなかったのととても興味がありました。とることはできなかったけど、泳いでたコウナゴは見るのができた。コウナゴ漁の最中に魚群探知機が壊れました。

カワハギの皮をむくのは簡単できれいにむけるので気持ちがよかったです。そのカワハギの名前はウマヅラハギだと教えてくれました。あとカワハギのことをチュッチュということも教わりました。

本当にいい勉強になりました。



## 漁村交流 新山 勸次

1日目は、バスに何時間が乗りました。映画はけっこうおもしろかった。最後まで見られなかったのが残念でした。むつ市漁協会議室について弁当を食べて少し休んだあと交流開会セレモニーが始まりました。テレビ局もきていました。開会式が終わると今回お世話になる三国優さんの車に乗って家まで連れてってもらいました。その後市場に行ったら家に帰ってきました。でもすることがなかったので8時に寝ました。

2日目は、5時に起きて5時半に海に出て船に乗り定置網の様子を見に行きました。1mぐらいのヒラメがいました。大きくてビックリしました。そして3つ目ぐらいの網の時から酔い始めて吐きそうやばかった。船からおりた後、縄を切りに行きました。慣れるとけっこうおもしろかった。少し作業したあと小笠原先生が来て、少し話をしていました。この日は全部終わらなかった。

3日目は5時半に起きて2つの定置網を上げて1回目にイカがたくさん入っていておもしろかったけどまた酔った。網を直しに行っているんな人がいた。網の穴が空いている場所をさがす作業をしたけどあまり見つからなかった。終わって帰った後写真を船に持っていかなかったことに気付いた。

4日目は5時半に起きて船に乗り海に出た。全部の網を上げたが少ししかとれなかった。小さい貝がたくさん入っていた。灯台みたいなどこに連れてってもらい小さい魚とカニがいた。観光客もけっこう来ていた。見たあとむつに行き、会場でみんなお礼のあいさつをした。こんど秋に来るときはもっとできるようになって役に立ちたい。秋はイカ釣りができるからもっと楽しいと思う。帰りにどこかに行ったけど時間がなくてあまり遊べなかった。やっぱり船の上が一番おもしろかった。



### 漁村交流に行って 高梨 智之

初めてのホームステイに行って、相馬さんの家に泊まりました。

1日目は、相馬さんってどういう人だろうと思って緊張したけど、やさしくて、楽しい人でした。相馬さんの家に行ってから、港に行って、さっそく船に乗りました。そして、沖に行って、コンブをあげたりしました。

そして、家に行って、相馬さんの息子の人と話したりしました。相馬さんの家のみなさんはとても明るく、たのしい人たちでした。

2日目は、朝の5時30分頃に起きて、そして、船に乗って沖に行って、定置網をあげに行きました。定置網をあげるのは初めてでどんなふうにあげるのか楽しみでした。そして、定置網をあげてみると、マスやヒラメ、ゴッコ、ヤリイカなどがとれました。そして全部の仕事がおわると、市場にもって行って、ヤリイカを箱につめたり、そして、マスを大きさにわけて、箱につめたりしました。2日目は、魚などがいっぱいとれたのしかたです。そして、午後は、定置網の網を直しました。とてもむずかしかったです。夜は、12時まで、網を直す練習をしました。つかれたけど、だいぶおぼえたし、楽しかったです。

3日目も、1日中網を直しました。すごくつかれたし、コシもいたかったです。でも相馬さんの知っている人などきて、いろいろ教えてもらったし、みんな楽しかったです。

そして最後の日は、途中まで網を直して、船のバッテリーを交換しました。

4日間楽しかったし、体験できなかったことなどしてすごく楽しかったです。



### 漁村交流の感想 米 大地

僕は、脇野沢の中村有男さんの家にホームステイしました。

1日目は、ホタテの網の修理を見学して、とてもむずかしく見えました。

2日目は朝早かったけど、底達網を入れて初めての体験だったのでとまどったけど、できる限りの仕事を手伝うことができた。この日から、6時～17時まで仕事をしたけど、ふだんずっと海に出ることがなかったのでとても大変でした。

3日目は、ホタテの網の選別とホタテの網上げをしました。今日は、始めにホタテの網を分ける仕事をして、網は、いっぱいあって分けていても数がなかなか減らなくて大変でした。午後からホタテの網を海から引き上げて「軽いべ」と思っていたけど実際かなり「重く」てけっこう大変だったけど網の中にホタテがいっぱい入っていてビックリしました。

4日目、今日は、最後に朝ホタテを上げにいてそのホタテを組合に渡しに行ってとても大変でした。4日間やったことのない仕事をやって1番ハードだったけど本当にいい体験ができたのでよかったです。



### 漁村交流 宮崎 直道

今回のホームステイでは、小笠原清春さんの家に行きました。ここは、小笠原先生の実家でした。俺と赤石の2人で12、3畳ぐらいの大きい部屋で寝泊まりすることになり、小笠原先生の弟さんが「家にいるときは暇だろう」と言って、たくさんマンガを持ってきてくれました。初日から漁に出ると思っていたけど、出なかつたのでマンガをずっと読んでいました。

2日目の4月26日は、朝の5時20分ぐらいには起き、そのまま朝朝食を食べて漁に出ました。この日は年に一度しかやらない網の取り替えをやりました。鰯やアイナメや眼張などが何匹かとれました。網を引いていると、小さい虫が泥と一緒にたくさん船にたまり、団子みたいに丸くつぶして投げたりしました。ガソリンの臭いで少し酔ってしまいました。午後2時半ぐらいに近くの温泉に行きました。

3日目も5時20分に起きました。この日も網の取り替えをしました。指示どおりにロープをほどいたりロープを「おもて」から「とも」に持っていったりして手伝いました。もう船には酔わなくなりました。網を引いていると、カモメが何十羽も舟のまわりを集まってきました。小さいタナゴや眼張を投げてカモメにあげたりしました。港に帰り、カメの中を見せてもらいました。ほっけや鰯、鰆、アイナメやイカが入っていました。「明日は4つ網をあげる」と言っていたので、ワクワクしていました。

4日目の最終日も5時20分に起きました。昨日言っていたとおり、4つ網をあげました。1つ網をあげるごとにいろんな魚があがってきました。ほっけや鰯、鰆、水蛸、鰯、鰯、眼張、ドンコ、タナゴ、ネコザメなどがあがりました。実際にあれほど一度に見たのは初めてだったので興奮しっぱなしでした。カゴに分けるのが楽しかったです。眼張や鰯はカゴにたくさん入っていました。小笠原さん一家はみんなやさしくしてくれたのでよかったです。4日間良い経験になりました。



# ホームステイを受け入れた漁業士の方々

## 岩屋漁協 相馬善意

5月に来たときは網修理と網おこしが主な仕事内容でした。網修理では戸惑いながらも見よう見まねで、わからないことは私達に聞きながらがんばっていた様子が見えました。網おこしでは漁のほうも多少あり、若い2人の力が役に立ちました。その他では研究会のコンブ調査に行き、地元漁師との交流も図れました。

10月にはサケ漁も始まっていて、網洗いの作業をしました。雨の中の作業でちょっとしたトラブルもありましたが無事3日間を終える事ができました。

春に来たときはどこか幼さを感じた2人が、秋帰るときには大人に近づいたように見えました。海洋学院を卒業後も高梨君、山内君には漁師として、そしてよい海の仲間としてこれからがんばってもらいたいです。



## 尻労漁協 向井 正喜

平成17年4月25日から28日に3泊4日の日程で15人の学院生がむつ支部会にホームステイされました。我が家には今別町出身の木村君、神奈川県出身の加藤君、大岡町出身の山本君の3人を受け入れることになりました。4日間のホームステイで陸では網の修理、会場では網おこしの作業体験でしたが、

作業している時の子供達は真剣そのものでした。

ホームステイを体験して帰るときの子供達の様子は少し遅くなったように見えました。短い体験学習ではあったかと思いますが、自分の進む進路に向かって頑張っていければと思っています。



## 尻労漁協 小笠原 清春

昨年春と秋の2回に分けて、それぞれ3泊4日の日程で漁師の家において漁業の体験を目的にホームステイが実施されました。

我が家では六ヶ所村出身の赤石君と神奈川県出身の宮崎君の二人を受け入れることにしました。8日間のホームステイでは海上での作業体験が2回だけでそれも風も悪く、板子一枚地獄を見るような体験を

させてしまいました。更には昨年秋には大型クラゲの来襲で漁業者の生活の厳しい一面だけを見せる結果になってしまいました。

将来漁業者を目指す彼らの意気込みを水に差す結果になったのではないかと心配です。



## 野牛漁協 三国 優

ホームステイをたのまれた時、我が家は娘3人なので、2人の男子生徒といっしょの生活にはちょっと不安でした。3泊4日の生活を共にした所、体は大きいはまだあどけないところもあり、すぐ不安なくなりました。

私は、底建網と定置網を操業していますので、朝早く起き、網おこしに行ったり網の修理やゴミ取りの作業をさせました。船酔いもしましたけど、自分たちが取って来た魚を料理して食べさせたらうまいなあと言ってたくさん食べてくれました。

2人は漁業が好きで学院に入学したのと聞いたら、魚が大好き、それに大きい船に乗りたいと言いました。私、漁師の1人としてうれしかったです。

3泊4日、短い春、秋のホームステイでしたが、また会える日があれば、成長した姿を期待しています。



## 猿ヶ森漁協 竹林 雅史

今、漁業後継者が少ない中で、漁師をめざす学院生の受け入れ(ホームステイ)は、初めてのことでありました。短い期間の中で学院生として、また卒業後、現場の中で活かせる何かを勉強し、身に付けてもらいたいと思いました。

春には、底建網の手網仕立てをしてもらいました。網針の持ち方から始まり最後の掃除までさせました。呑み込みが早く感じましたが、手を痛そうにしていました。秋には、鮭網起こして大量の大型クラゲの排除を体験ができ現場の厳しさも良い勉強になったと思います。一本釣り漁師になりたい、トロール船に乗りたくい、目を輝かせ、夢は膨らんでいるようでした。半面、格好つきたい今時の子供と感じる一面もありました。まだまだ、メンコイ(あんちゃ)でした。最後に、水産業の金のたまごとして大海原の船の上に大股で踏ん張りしっかりとご活躍することを祈念し遅く、真っ黒になった顔での再会を期待します。



## 脇野沢村漁協 中村 有男

今度私は、4月に海洋学院生2名を受け入れました。この時期はヒラメ底建網の場取りの最中で、また、ホタテ半成員の出荷もしていました。

網の立てこみには、一緒に同行できませんでしたが、ホタテ出荷当日は、“なぎ”も良く、船に乗せて出来る範囲の作業を手伝ってもらいました。

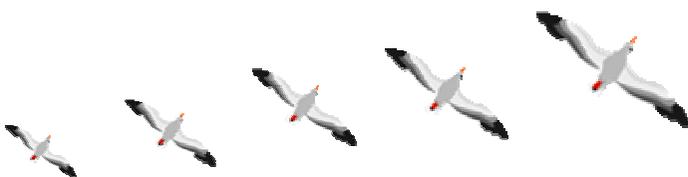
陸(おか)では、網の修理やホタテ籠の補修など見せてやらせていました。2人とも将来は、跡を継ぎたいという事でとても頼もしく思えました。私の仕事の体験を通じ、これからの若い後継者として頑張って頂きたいと願います。



## 猿ヶ森漁協 石田勝信

私のところに来た学生は二回目になりましたが、生徒達には何も教えてやる事がなかった。

もちろん私自身まだ自分の仕事をものにしたわけではないからです。ただ家に来た生徒には普段の生活を見てもらうだけでした。生徒の中でもさまざまな漁業にたずさわるとありますが、人生仕事も一生懸命、遊びも一生懸命、意地と根性で漁業でもまた違う職に就いても、頑張れ!!



# 浜の伝統行事

## 東青支部



### おごもり (平内町・口広地区)

本来は船の年取りで一晩神社にこもるんだそうです。一晩お酒も振舞われるとケンカが始まったり、足を滑らせて怪我人などがでるため現在では終了時間を決めて、やっているそうです。それとホタテのミヅリ作業真只中の2月に開催されるため、出席率が低くなりクジ引きで賞品が貰えるなど、人集めに苦労が絶えないようです。消えそうでなくなる口広のおごもりでした。

## 三八支部

### 氷下曳漁 (小川原湖)

5年ぶりに全面結氷した小川原湖において、伝統漁法である氷下曳(しがびき)漁が行われました。厳寒の地ならではの漁法で、結氷した小川原湖の冬の風物詩となっています。



漁法は、網を入れる入れ穴、網を上げる上げ穴を掘り、周囲300mの網を入れる。網を引くロープはシガザオ(ラワン材の5本継ぎ、20m余り)と呼ばれる棒で氷の下を通し、網をセットする。特徴的なのは、網の足に藁を付けることで、浮力をつけることにより泥をすくい取らないよう工夫している点である。

昔ならば12~3人程度で作業したとのことであるが、今回は20~30人と大勢での作業となりました。

今年は、2月14、20、21日の3日間行われ、ワカサギ、ウグイ、コイ、レンギョが漁獲されています。特に、20日には10~20kgの巨大なコイが約100尾漁獲され、氷下曳網漁の醍醐味を味わうことができました。



## むつ支部

### 梯子乗り (川内町)

平成2年、川内町消防団第1分団が中心となり梯子隊を結成。毎年1月の新年祈願祭・新年出初式と5月の定期観閲式において披露している。

梯子乗りの由来は、加賀藩江戸屋敷の大名火消し「加賀鷹」が梯子を立てて火の見櫓の代用とし、火事の確認を行ったところから始まったと言われている。

約7mの梯子を使い、13通りの乗り方(梯子乗り技術)を披露しており、消防団のむつ下北支部管内で唯一梯子乗り演技を行っている。



(写真)“火の見櫓見張り乗り”

菊池昭博青年漁業士(川内町漁協)の勇姿  
「ヨーガンショ!!!」

## 日本海支部

### 白八幡宮大祭 (鯉ヶ沢町)

白八幡宮大祭は300年以上の歴史がある祭りで、藩政時代に藩の御用港として栄えた当時の鯉ヶ沢の面影を残す古式ゆかしい伝統行事です。白八幡宮大祭の御神輿行列は町の無形文化財に指定されています。

この祭は、京都の時代まつりと祇園まつりにとてもよく似ていることから、「津軽の京まつり」と称され、それは北前船交易によって上方から運ばれてきた文化の影響を受けたものと考えられています。

行列の中心をなす二柱の御神輿には、白鳥大明神と白八幡宮の二体の御神体が納められています。白鳥大明神はその昔、田中町の水屋浜というところにあり、御神体は海から上がってきたものといわれています。(現在は、白八幡宮に合祀)。そのため、御神輿は、白装束をまとった漁業者がかつぐことと決められています。(鯉ヶ沢町HPより)



# 第2の人生スタート

水産振興課栽培・資源管理グループリーダー加藤徳雄氏と青森地方水産業改良普及所長田中裕憲氏においては、平成18年3月31日をもって青森県を定年退職されました。

これに先立つ3月9日、東京都の虎ノ門パストラルで開催された平成17年度(第36回)全国水産業改良普及職員協議会通常総会において、永年勤続者の表彰が行われ、田中氏が10年勤続表彰、加藤氏が特別表彰を受けられました。

これまでの功績に対し、感謝の意を表するとともに、これからの人生にエールを送ります。

## 我が普及員(指導員) 人生に悔いはなし!!

裕憲

漁業士会との関わりは確か、平成7年度であったと記憶している。それは、私が、鯉ヶ沢地方水産業改良普及所長として着任した翌5月某日に行われた県漁業士会の通常総会終了後に当時会長であった山口隆治氏がニコニコしながら私の所へ歩み寄って来て、県漁業士会の支部会が日本海地域だけない状態なので、是非、何とかして作って欲しいと要請され、先に、何の見込みもないまま、即断即決して支部会の設立を引き受けたのが最初であったと思う。その当時、青年漁業士で後に初代会長となる八木沢健一氏と会って早速、支部会の設立話を持ちかけ、仲間の賛同を取り付けて設立発起人会を立上げ、本格的に設立に向けた準備に取り掛かった。この時、日本海地域に在籍する漁業士の数は12名位よりなく、会員による会費収入だけでは到底、会を運営していくことはできないと判断し、漁業者は毎日の出漁等で忙しく、時間的に余裕がなかったことから辛い仕事ではあったものの、自分自身が頭を下げて管内各町村と漁協に賛助会員の引き受けと会費の負担をお願いして歩き、理解と協力を得られたことが今、凄く、懐かしく思い出される。

支部会の名称を「日本海支部会」とし、設立発足の日を9月某日と決めていたので、本当に、そのとおりに発足させることができ、良く間に合ったものだとして今でもそう思っている。その後もむつ支部会および東青支部会とも関わりを持ったが、最後の勤務場所となった青森地方水産業改良普及所においては、特に女性漁業士の育成強化を組織目標に掲げ、この2年間で女性漁業士3名を増員させることができ、県全体では10名の2ヶ台に乗せることができた。

県職員として勤務した42年間のうち、10年を普及員(指導員)として楽しく過ごせた我が人生に悔いはない。

## 全国水産業改良普及職員協議会永年勤続特別表彰を受けて

加藤 徳雄

こういうことを「櫛からぼた餅」と言うのでしょうか。今回の私の表彰は、まさしくこの言葉に当てはまるのではないだろうか。

青森地方水産業改良普及所に勤務した頃、2回ほど全国水産業改良普及職員協議会総会に出席したことがありました。

総会において、被表彰者の素晴らしい活動と功績に対して、大きな拍手を送ってきましたが、今年度の総会で、まさか私が「特別表彰」を受けるとは夢にも思っておりませんでした。

このような賞を受賞出来たのも、多くの関係者の方々のご協力があったからこそと改めて感謝する次第です。

普及活動の場は言うまでもなく浜が仕事場です。

特に、漁業士の皆様のご理解とご協力があって、はじめて普及活動ができるものと認識しております。

これまで、ご協力をくださいました、関係者の皆様に対しまして心から感謝とお礼を申し上げます。

ご意見、ご感想をお寄せ下さい。  
青森県漁業士会「浜風」編集委員会  
事務局:青森県農林水産部水産局水産振興課内  
〒030-8570 青森市長島一丁目1-1 :017-734-9592

(編集後記)

3月の発行予定が大幅に遅れてのお届けとなりました。既に懐かしい記事もありますが、活動を振り返るつもりで読んでいただければと思います。次号は、新会員の紹介です。新たに会員となった17名と指導漁業士に移行した6名の抱負を掲載する予定ですのでご期待ください。(采田)

初めての編集は、ソフトの選択から始まりました。文章機能についてはどれも似たようなものなのですが、画像の取り込みが一長一短があり迷いました。結局、今あるソフトの中で一番使いやすかったのがパワーポイント。プレゼン用のソフトを目的外使用し、完成したのが浜風vol.14です。(清藤)